

8/14 使徒の働き 19章 1-20節 「こうして、主のことばは」

小池 宏明 師

今日は、パウロの第三回伝道旅行のエペソ宣教をみる。エペソは、今のトルコ共和国の西海岸に位置する。ローマ帝国が造った大きな港町で、貿易の重要拠点であった。今回は、20節「こうして、主のことばは力強く広まり、勢いを得ていた。」に注目し、主のことばは力強く、勢いよく広まった理由を求めてみたい。

第一に、正しい信仰告白が大切である。(1-7節) パウロが、エペソの教会に行った時、信徒たちは、まだ、聖霊を受けていなかった。パウロは、「イエスの御名によって受けるバプテスマ」があることを伝え、人々は、主イエスの御名によるバプテスマを受けた。その後、聖霊が臨まれたことが、明らかなしるしを伴って示された。正しい信仰告白に基づく聖礼典(洗礼や聖餐)が執り行われてこそ、神の言葉が勢いよく広まるのだ。

第二に、困難に直面しても諦めずにみことばを語り続けること。(8-10節) パウロが、会堂で語ることができたのは三ヶ月だけで、頑ななユダヤ人たちから罵られたので、パウロは場所をティラノ講堂に変えて、2年間、毎日、主のことばを語り、議論し続けた。正しいこと、真実を語っているのだから、諦める必要はない。いつでもどこでも、反対する人や批判する人がいる。苦難があっても、諦めることなく工夫して、人々がみことばに触れるチャンスを作り続けていきたい。

第三に、素直に罪や悪を告白すること。(11-18節) 当時は、魔よけ祈祷師が、諸国を巡回していたようだ。彼らは、パウロが伝えているイエスの名を利用してみた。そうしたら大変な被害を受けてしまった。それを見た人々はみな恐れを感じて、信仰を持っている人たちの中から、心刺されすべての罪や不義を包み隠さず告白する者が出てきた。具体的な告白内容は記されていないが、異教的な偶像礼拝の風習や魔術的な事柄や、口に出すのも恥ずかしいような隠れて行っていたことなどを、すべて、洗いざらい告白して、主に立ち返ったのだろう。注目したいことは、この事が信仰を持っている人たち(教会)の中で起こったことだ。こうして御ことばは、外に向って力強く広がっていくのだ。

第四に、悪習慣と完全に決別したこと。(19節) 魔よけ祈祷師たちは、銀貨五万枚分の書物を焼き捨てた。イエス・キリストを信じて、新しい職に就いて、新しい人生を出発しようとする決意の表れだ。

私たちの教会も、エペソ教会のように主の御ことばが力強く広まるように、願っている。そのために、上記を心に留めて、新しい一週間を再出発したい。